

# 学校長御留書

加古川市立志方東小学校  
令和5年度  
学校便り夏休み特別号  
第6号  
R5.8.2発行

## 人権とは何か『ゴリラ裁判の日』須藤古都離(講談社)を読む

夏休みに入ってから読んだ本を紹介します。国内外のニュースで、人権という言葉を見聞きすることが多いです。見出しの『ゴリラ裁判の日』は、メフィスト賞（未発表の小説を対象とした新人賞で、特徴としては対象となるジャンルがエンタテインメント作品、ミステリー・ファンタジー・SF・伝奇などという大まかな区分であること）を受賞した著者のデビュー作であり、「人権とは何か」という問いに真正面から向き合った作品です。そして、そのテーマを伝えるための主人公は、カメルーン出身のローランドゴリラ（名はローズ）です。

### 【あらすじ】

アメリカの動物園で、柵の中に落ちた人間の子どもを救うために、ゴリラが射殺されるという事件が起きた。動物園に対して裁判を起こしたのは、妻であるローズ。高い知能の持ち主であり言葉が理解できる彼女は、アメリカ式手話を音声化する特製グローブの装着によって人間と会話ができるのだ。はたして、裁判の行方は？ローズの波瀾万丈のライフストーリーとは？



- ・「私は弱いものを信じない。」「正義は人間に支配されている。裁判官も陪審員も全て人間。誰も私たちゴリラのことを理解しない」（ローズ）
- ・「正義は人間が独占しているだと？人をバカにするのもいい加減にしろ。君は正義というものを全く理解していない。そもそも完璧な正義なんてものは現実には存在しないんだよ。僕たち人間が不完全な存在だからな。人間は粗暴で矛盾を抱えた、利己的な存在なんだよ。だが、僕たちはそれで満足していたわけじゃない。何千年もの歴史をかけて憲法や法律を作り、司法制度を練り上げてきたんだ。完璧な正義を達成するためじゃない、より良い社会を築くため、正義に少しでも近づくためだ。その過程でどれだけの犠牲があったと思う。どれだけの苦勞があったと思う？」（ローズの2人目の弁護士ダニエル）
- ・「私は何者なのか、ずっと悩んで生きてきました」「たとえ私が貧しくとも、私は人間である」「たとえ私が生活保護を受けていても、私は人間である」「たとえ私が檻に閉じ込められていても、私は人間である。たとえ私が未熟でも、私は人間である。たとえ私が間違いを犯しても、私は人間である。たとえ私がゴリラでも、私は人間である」「私は尊重されるべきだ。私は守られるべきだ。私は人間なのだから」（ローズ）

ローズが2度目の裁判の過程で、自分は「特別な存在」だという認識ゆえ、他者に対する想像力に欠けていると気づきます。特別さの主張は、他者の人権を侵害することにつながりかねません。「私は、特別な存在ではない、そんな私にも命の価値や尊厳は他者と平等にある」。設定は、絵空事ですが、だからこそ伝えられる真実があり、胸にストンと落ちてきます。重いテーマですが、賞の名に恥じないエンタテインメントの醍醐味を味わえる作品となっており、お薦めです。